

医学教育部博士課程 医学専攻 カリキュラムツリー 一般コース（基礎医学系・臨床医学系）

ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、「A. 本人が筆頭（第1）著者となっている学位論文1編」または「B. 学位論文（Thesis）と本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上」の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって合否が決定される。

カリキュラムポリシー：

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の修得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

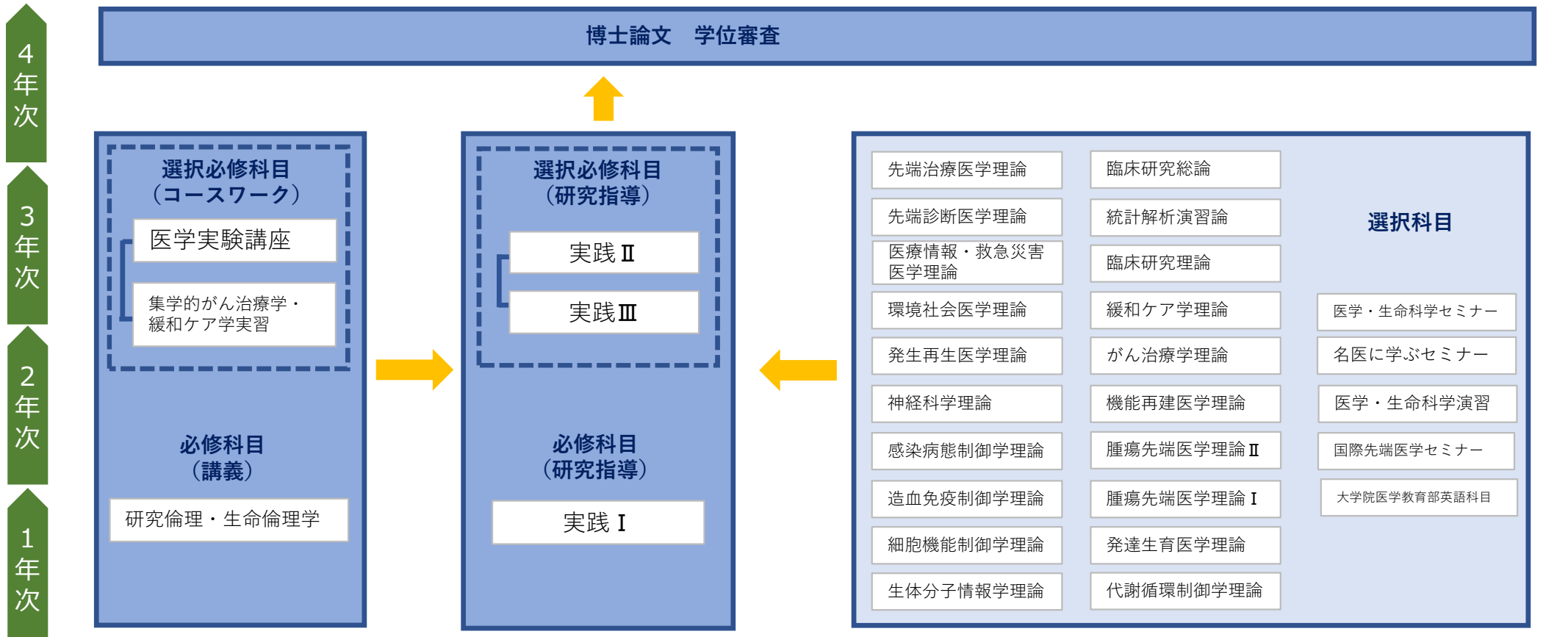
- ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。
- ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。
- ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。

グローバルな視野と行動力

- ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。
- ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。
- ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。

地域社会を牽引するリーダーカ

- ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。
- ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。
- ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。



医学教育部博士課程 医学専攻 カリキュラムツリー 感染症およびエイズの克服を目指した先端研究者育成コース

ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、「A. 本人が筆頭（第1）著者となっている学位論文1編」または「B. 学位論文（Thesis）と本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上」の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって可否が決定される。

カリキュラムポリシー：

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の修得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

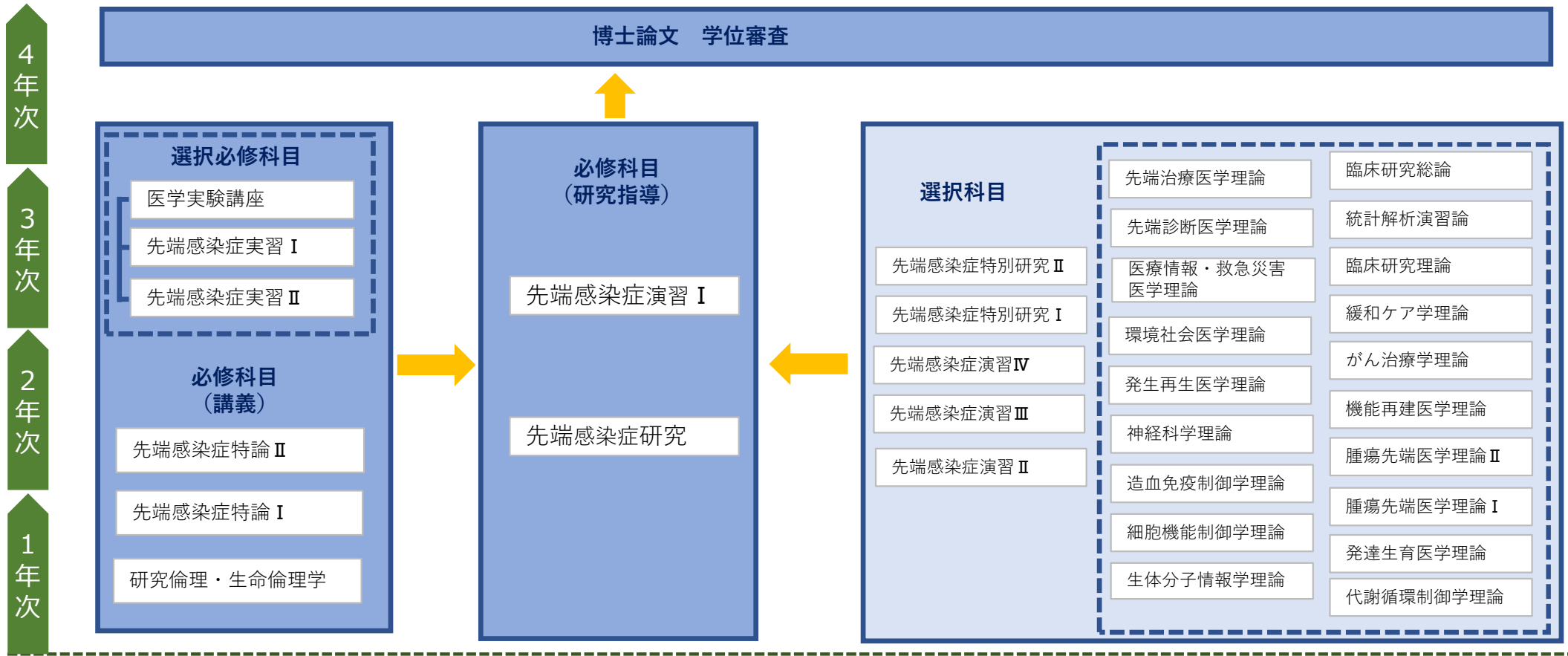
- ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。
- ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。
- ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。

グローバルな視野と行動力

- ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。
- ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。
- ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。

地域社会を牽引するリーダーカ

- ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。
- ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。
- ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。



医学教育部博士課程 医学専攻 カリキュラムツリー 代謝・循環情報医学エキスパート育成コース

ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、「A. 本人が筆頭（第1）著者となっている学位論文1編」または「B. 学位論文（Thesis）と本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上」の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって可否が決定される。

カリキュラムポリシー：

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の修得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。
- ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。
- ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。

グローバルな視野と行動力

- ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。
- ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。
- ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。

地域社会を牽引するリーダーカ

- ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。
- ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。
- ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。

博士論文 学位審査

4
年
次

3
年
次

2
年
次

1
年
次

必修科目 (講義)

研究倫理・生命倫理学

選択必修科目 (研究指導)

実践Ⅱ

実践Ⅲ

必修科目 (研究指導)

実践Ⅰ

選択必修科目

生体分子情報学理論

代謝循環制御学理論

医学実験講座

代謝循環情報・発生医学実習

発生・再生医学特論Ⅱ

名医に学ぶセミナー

医学・生命科学演習

国際先端医学セミナー

医学・生命科学セミナー

発生・再生医学特論Ⅰ

大学院医学教育部
英語科目

医療情報・救急災害
医学理論

環境社会医学理論

発生再生医学理論

神経科学理論

造血免疫制御学理論

感染病態制御学理論

細胞機能制御学理論

生体分子情報学理論

生命倫理学特論

移植免疫学特論

臨床研究総論

統計解析演習論

臨床研究理論

緩和ケア学理論

がん治療学理論

機能再建医学理論

腫瘍先端医学理論Ⅱ

腫瘍先端医学理論Ⅰ

発達生育医学理論

代謝循環制御学理論

先端診断医学理論

先端治療医学理論

医学教育部博士課程 医学専攻 カリキュラムツリー 健康寿命の延伸を目指した研究者養成コース

ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、「A. 本人が筆頭（第1）著者となっている学位論文1編」または「B. 学位論文（Thesis）と本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上」の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって可否が決定される。

カリキュラムポリシー：

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の修得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。
- ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。
- ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。

グローバルな視野と行動力

- ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。
- ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。
- ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。

地域社会を牽引するリーダーカ

- ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。
- ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。
- ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。

博士論文 学位審査

4
年
次

3
年
次

2
年
次

1
年
次

必修科目 (演習)

健康長寿代謝学演習Ⅲ

必修科目 (講義)

健康長寿代謝制御特論Ⅱ

健康長寿代謝制御特論Ⅰ

生命倫理学特論

必修科目 (研究指導)

実践Ⅰ

実践Ⅱ

選択科目

特別演習

健康長寿代謝学演習Ⅰ

健康長寿代謝学演習Ⅱ

先端治療医学理論

先端診断医学理論

医療情報・救急災害
医学理論

環境社会医学理論

発生再生医学理論

神経科学理論

感染病態制御学理論

造血免疫制御学理論

細胞機能制御学理論

生体分子情報学理論

臨床研究総論

統計解析演習論

臨床研究理論

緩和ケア学理論

がん治療学理論

機能再建医学理論

腫瘍先端医学理論Ⅱ

腫瘍先端医学理論Ⅰ

発達生育医学理論

代謝循環制御学理論

医学教育部博士課程 医学専攻 カリキュラムツリー 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース

ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、「A. 本人が筆頭（第1）著者となっている学位論文1編」または「B. 学位論文（Thesis）と本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上」の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって合否が決定される。

カリキュラムポリシー：

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の修得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。
- ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。
- ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。

グローバルな視野と行動力

- ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。
- ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。
- ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。

地域社会を牽引するリーダー力

- ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。
- ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。
- ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。

博士論文 学位審査

4
年
次

3
年
次

2
年
次

1
年
次

必修科目 (講義)

研究倫理・生命倫理学

腫瘍先端医学理論Ⅰ

必修科目 (コースワーク)

集学的がん治療学・
緩和ケア学実習

選択必修科目 (研究指導)

画像診断学実践Ⅲ

がん外科療法学
実践Ⅲ

がん放射線治療学
実践Ⅲ

緩和ケア学実践Ⅲ

必修科目 (研究指導)

実践Ⅰ

先端治療医学理論

先端診断医学理論

医療情報・救急災害
医学理論

環境社会医学理論

発生再生医学理論

神経科学理論

感染病態制御学理論

造血免疫制御学理論

細胞機能制御学理論

生体分子情報学理論

臨床研究総論

統計解析演習論

臨床研究理論

緩和ケア学理論

がん治療学理論

機能再建医学理論

腫瘍先端医学理論Ⅱ

腫瘍先端医学理論Ⅰ

発達生育医学理論

代謝循環制御学理論

医学・生命科学セミナー

名医に学ぶセミナー

医学・生命科学演習

国際先端医学セミナー

大学院医学教育部英語科目

医学教育部博士課程 医学専攻 カリキュラムツリー 先端幹細胞研究領域の次世代研究者養成コース

ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、「A. 本人が筆頭（第1）著者となっている学位論文1編」または「B. 学位論文（Thesis）と本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上」の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって可否が決定される。

カリキュラムポリシー：

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の修得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。
- ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

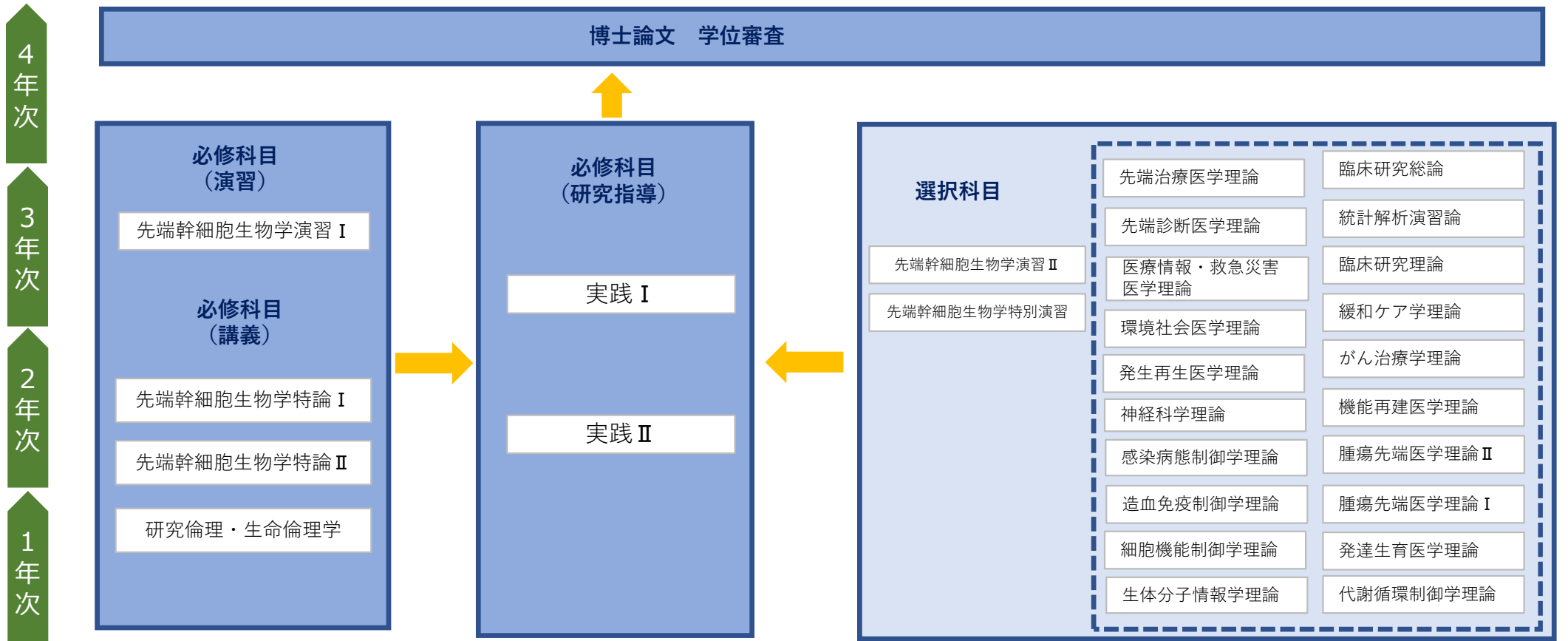
- ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。
- ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。
- ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。

グローバルな視野と行動力

- ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。
- ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。
- ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。

地域社会を牽引するリーダーカ

- ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。
- ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。
- ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。



4
年
次

3
年
次

2
年
次

1
年
次